

## 第14回定例岡山県教育委員会議事録

1 日 時 令和7年11月25日（火）  
開会13時30分 閉会14時24分

2 場 所 教育委員室

3 出席者	教育長	中村 正芳
	委員（教育長職務代理者）	上地 玲子
	委員（教育長職務代理者）	服部 俊也
	委員	梶谷 俊介
	委員	田野 美佐
	委員	須江 健治
	教育次長	後藤 博幸
	教育次長	佐々木 亨
	学校教育推進監	室 貴由輝
	教育政策課	課長 小林 伸明
		副課長 小野 敏靖
	総括副参事	滝澤 容彦
	高校教育課	課長 鶴海 尚也

4 傍聴の状況 0名

5 報告事項

- (1) One Young World グローバルサミット 2025への生徒派遣の概要について
- (2) 令和8年3月新規高等学校卒業予定者の就職内定状況等について

6 その他

7 議事の大要

開会

非公開案件の採決  
(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

特にないようなので、直ちに採決に入る。

**報告事項（1）One Young World グローバルサミット 2025への生徒派遣の概要について**

・高校教育課長から資料により一括説明

(委員)

One Young World グローバルサミット 2025に派遣された職員の感想、効果、およびその経験を今後の行政にどう生かすかについて伺いたい。

(指導主事)

サミットへの派遣について、参加者の大半は起業家や企業勤務者であり、その中に高校生が英語で参加することは大変なことであり、派遣者を決定する側としては、高校生にチャレンジ精神、語学力等が求められると感じた。しかし、派遣された高校生は参加者と積極的に交流し、周囲のサポートも得て成長を遂げ、多くの学びを持ち帰っている。

派遣職員自身も、世界のリーダーやノーベル平和賞受賞者（マリア・レッサ氏）、被爆者団体の方々の講演を通じて視野を広げ、平和への意識の高さを実感した。

今後は、動画の作成を含む報告を行うとともに、グローバル人材育成に一層注力していく。

(委員)

生徒の引率者として同行する職員が、単なるサポートに留まらず、派遣で得た知見や刺激を岡山県の教育にどう展開し、他の生徒や県全体の教育振興に生かすかという視点を持つことで、岡山県の教育全体への波及が期待されるため、次年度以降は岡山県の教育にどう展開できるかという視点を持って同行してほしい。

派遣によって、同世代のリーダーたちの経験から刺激を受け、教員のリーダーとして他の教員を巻き込みながら、その経験をどう生かしていくかを考えるきっかけになると良い。

(課長)

来年度は南アフリカでの開催だが、次々年度は東京開催が決定しており、これを機に教員の派遣も含め、一層の機運醸成を進めたい。

(委員)

サミットで築いたネットワークを活用し、岡山県の高校生と海外の高校生が交流・情

報交換できる場を提供し、企画・運営することで、交流の輪を広げ、次回のサミット参加者発掘にも繋がる可能性があるので、そういうことも検討してほしい。

**(課長)**

サミットで得たネットワークについては、高校生のものだけでなく、教育関係者といった大人が関与したものも有効だ。夢育の取り組みがインドの教育関係者から高く評価されたことから、うまくつながりを作ることができると良いと考える。

**(委員)**

派遣に適した候補者について、高校3年生は受験で時期的に厳しいため、低学年の生徒や教員なども含めた多様な層を検討したのか、また、候補者を発掘するための知る機会等がどれくらい用意されているのか。

**(高校教育課長)**

派遣の選考は、年度当初に全県立高校へ募集要項を配布し、希望者を募っている。参加資格は18歳以上かつある程度の英語力が必要なため、応募者は多くない。今年度は3名、昨年度は8名の応募があったが、どの応募者も適性は有していた。

派遣の機会を知るきっかけとしては、県教育委員会の夢育関連事業（高校生国際会議、Well-being サミットなど）が大きく、今回の派遣者も1年生の頃からこれらの活動に参加し、派遣を強く希望していた。今後も Well-being セミナーなどを通じて、アンバサダーが派遣の魅力を広報し、広く高校生に機会を伝えていく方針である。

Well-being セミナーなどに積極的に参加しており、意欲ある高校生であれば誰でも候補者になり得ると考えている。

**(委員)**

派遣者が高校1年生の頃から当該派遣事業に向けて準備していたことがわかつてよかったです。

今後は、中学生が高校生の姿を見て、目標になるとなお良いと思う。

**(高校教育課長)**

グローバル人材育成について、高校生だけでなく義務教育段階の中学生にも力を入れている。先日開催された留学促進フェアでは市町村教育委員会へも情報提供したことと、中学生の参加者が増加しており、県立高校のグローバル人材育成の取り組みを義務教育段階にも積極的に伝えていきたい。

**(委員)**

サミットの参加資格は、18歳以上であるが、高校生だけでなく、大学生、社会人になってからも参加可能であるため、岡山で学んだ高校生が大学進学後や社会に出た後もサミットに参加したいと思えるよう、アンバサダーがその魅力を発信していくことが重要ではないか。

高校段階で18歳に満たない生徒もいるため、高校生だけでなく、大学や社会人になってからも参加できるという多様な選択肢を提示し、中学生の頃からより幅広い層に

サミットの存在をアピールしていくべきだ。

アンバサダーの発信内容や、岡山県出身の大学生や社会人の参加者とのネットワーク構築も視野に入れることも検討してみてもよいのではないか。

(高校教育課長)

サミットの認知度は高まっていると感じている。岡山県からの高校生派遣は岡山大学の協力によるものだが、一般からも応募・参加が可能である。

この国際的な舞台へ参加できる可能性を若者に伝えていく方法もあると思う。

先日、岡山大学でサミットの参加経験のある著名人によるトークショーが開催され、派遣された高校生も参加したが、若者が将来を見据えて参加を検討できるよう、広報していきたいと思う。

**報告事項（2）令和8年3月新規高等学校卒業予定者の就職内定状況等について**

- 高校教育課長から資料により一括説明

(委員)

昨年度のこの時期の未内定者は、その後どのように就職が決まっていったのか、または決まらない人がいたのか、実態を教えてほしい。

(高校教育課長)

昨年度の就職内定率は、10月末時点で 82.5%、3月末までに 98.5%が決定している。現在多くの生徒が結果待ちの状況で、公立希望者 300 人程度のうち約 100 名は公務員の結果を待っている状況。民間希望者 200 名も、複数回の選考を経て内定が決まるケースが多い。一部には内定が決まらない生徒や、卒業後の就職を見送り進路を変更する生徒もいるが、最終的には就職を希望する生徒は、ほとんどが内定している状況である。

(委員)

求人数が業種によって異なっているが、内定状況は、学科によって違いがあるのか。

(高校教育課長)

就職内定状況において、学科と職種の内定率に直接的な関係はあまり見られない。現在内定が出ていない生徒の多くは、人気の高い職種や企業に挑戦し、競争率が高いため初回選考で内定を得られなかつたケースが多い。

(委員)

高校の学科と就職先の業種は、関係しているわけではないのか。

(高校教育課長)

工業科の生徒が製造業、商業科の生徒が卸売・サービス業に進む傾向はあるものの、商業高校卒の男子生徒が製造業に進むケースなど、近年は多様な進路選択が見られる。

**閉会**